

# 小泉次太夫物語

## 今に残す二ヶ領用水開削の祖。

### 別名「次太夫堀」としてその名を

じだゆうぼり



次太夫は駿河の国富士郡小泉郷の出身で、「小泉家先祖書」によると先祖は今川氏真に仕え植松と称したが、今川氏の没落後、徳川家康に登用され、小泉を改姓するように命じられた。慶長2年(1597)、家康が多摩川沿岸を巡視した時、次太夫は、「水を引き新田開発を」と家康に進言してそれが受け入れられる。このことから別名「次太夫堀」とも呼ばれる。

二ヶ領用水の完成後、その功績によって本領の他、本田・新田のうち十分の一を給される。その後、元和5年(1619)、次太夫は、三男の吉勝に代官職を譲って妙遠寺に隠居し、元和9年に85歳で没した。

今も川崎病院裏の妙遠寺に次太夫夫婦の逆修塔が残っている。



●洪水の守り神と呼ばれていた船島神社。



次太夫肖像(1539~1623)山田蔵太郎著『稲毛川崎二ヶ領用水事績』国書刊行会より

●小泉次太夫巡検図(入谷清久氏蔵)



多摩川水系

## 五反田川

五反田川は、準用河川の上流端と一級河川の下流端では45mの高低差があり随所に床固め、落差工を設けている急流河川です。

## 高低差の激しい「五反田川」

五反田川は、麻生区細山地先から、細山調整池を経て小田急線に沿って蛇行しながら流下し、東生田地内で二ヶ領本川に合流する流路延長4.75km、流域面積8.0km<sup>2</sup>の都市河川です。勾配も急峻であるため洪水時の雨水は上流から下流まで約20分という短時間

で流れ、高低差の激しい河川です。このようなことから、五反田川下流部、および二ヶ領本川と合流する箇所は急激に水位が上がるため、度重なる水害を繰り返してきました。改修にあたっては、一級河川区間において、河床下げを主体とした護岸工事

を行っています。また、五反田川の下流部および、二ヶ領本川の河道の能力不足を補うため、下流部から直接多摩川へ放流する五反田川放水路の事業を推めています。



●五反田川(多摩区枳形地内)